

南海トラフ、薬の備え

立秋は過ぎても秋とは名ばかりの猛暑が続いておりませんが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？

先日、南海トラフを震源とする巨大地震の注意喚起がありました。もともと日本は災害が多い国として知られています。が、皆さまは災害時の薬に対する準備はされていますか？

薬語

よもやま

[105]

松阪地区薬剤師会

まず避難時、かばんに入れておきたいのが「お薬手帳」です。「お薬手帳」とは、自分が服用している薬の種類や量、服用期間などを記録する手帳のことです。薬局で作ってください。

災害時は持っていることで、飲んでいる薬の種類が速やかに把握できるため、よりスムーズに適切な医療を受けることができます。

東日本大震災では、薬剤師が内容を確認して、安定した慢性疾患と判断できる場合は、処方せんがなくても薬をお渡しすることができました。

また、災害現場では薬

の在庫が不安定なため、同じ効果のあるものへの変更が行われました。

その際にはお薬手帳に記載されたアレルギー歴、副作用歴などを参考に、継続した治療を

す。薬局でもらった薬の説明の紙などを防災セットに入れておいても良いかもしれません。

もちろん普段飲んでい

る薬も一緒に入れておく

と重ねて安心です。さらに可能であれば、総合風邪薬、解熱鎮痛剤、胃腸薬、整腸剤なども準備しておきましょう。

今回のように地震などの災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。いざという時のために災害時への備えを再度確認しておくことをお勧めします。



受けることが可能となりました。

最近では携帯電話のアプリなどで「電子お薬手帳」を利用の方も見えますが、災害などで電波状況が悪くなる場合もありま

(薬剤師 西 美香)